

■播磨科学公園都市の新たなあり方についての地域意見交換会

■2025 年 10 月 17 日（金）18 時 30 分～20 時 00 分

■意見交換会に対する意見

- ・播磨科学公園都市の新たなあり方検討協議会の「新たな」の意味は何なのか。計画の方向転換なのか、あるいは、止めることなのか。
- ・今回の意見交換会は、県が撤退するアリバイ作りではないか。アリバイ作りに参加するつもりはない。

→今回の会は都市の今後をどうしていくのかを県や行政だけでなく、地域の皆さまと一緒に考えていくスタートとなる会である。

そのため、今日の会で何かを決めたり結論を出すものではない。

また、今回で終わりではなく、今後継続して皆さんの意見を聞く場を設けていく。

いろいろな人の意見を聞きたいと思っている。

■主な意見

①生活環境（飲食・買い物・医療・教育・娯楽など）

- ・通信環境について、行政機関や研究者と住民との間で格差がある。姫路ケーブルテレビが唯一の選択肢となっているため、テクノに住みたいという方もこの関係であきらめる場合があるのではないか。
- ・コープしか買い物する場所がない。マックスバリュなど大型のお店があれば良い。
- ・播磨高原の学校については、後の存廃が議論されている。現在の小学校の1階と2階をそれぞれ小学校、中学校とし、所在は同じだが手続きが煩雑になる小中一貫校としては扱わないというような方法もあるのでは。その上で、現在の中学校の場所に県立大学の附属小学校を設立するなど可能なのではないか。
- ・一般的に在宅勤務が増えているため、リモートワークができるネット環境が整うと良い。
- ・高齢者が多くなる中、医療について西播磨のリハビリテーションセンターが「一見さんお断り」の状況である。誰でも診てもらえるような体制になれば良い。
- ・都道府県立の附属小学校の事例は少ない。テクノ内で小中高大を完結できるような特色ある教育環境を目指すのがよいのではないか。それにより、住宅価格を下げないで、あえて高価であるが教育環境が整ってること子育て世代が少々高くても購入してくれるのではないか。例えば、西播磨の田園調布を目指してみても良いのではないか。住んでいることに価値を生み出せる場所にできるとよい。
- ・医療面では内科などのかかりつけ医が不足している。リハビリテーションセンターにも対応いただいているが制約がある。
- ・地盤がしっかりしており自然災害への耐性が高い。住んでいる方は知っているが住んでいない人にもアピールしてはどうか。

②自然環境（自然・景観・環境保全・アウトドア活動など）

- ・テクノは自然環境に富んでおり、紅葉やチューリップ園など四季折々の綺麗な景色がある。これをアピールしてはどうか。

- ・金出地ダム周辺は非常に景観が良い。ウォーキングやマラソンコースなどに設定することで、外から人を呼ぶ仕組みにできるのではないか。一部道が整備されていない部分があるが、それが整備されれば非常に魅力的なコースとなるのではないか。
- ・芝生広場について、星が非常にきれいである。これを活かすためにバーベキュー施設をつくるのが有効なのではないか。あるいは、スケボーパーク（姫路、赤穂、相生にはあるが、三市町にはない）などの施設をつくることで、人を呼び込む仕掛けとなるのではないか。
- ・テクノの魅力としては、自然が豊かであることや昆虫がいることなどもある。このような資源を活かしたイベントを検討してもよいのではないか。光都プラザの裏山は、「光都里山整備ボランティア」により手入れもされており、植物も含めて触れあいやすく魅力を生かせると思う。

③公共施設・インフラ等（水道・道路・交通）

- ・第2、第3工区の開発が止まっているため、道路の整備も途中で止まっている。道路の線形をよくすることはできないのか。
- ・インフラについて、元々の計画を反映しており規模が大きい。例えば新宮からの水道を廃止して、上郡分だけでも十分なのではないか。
- ・水道施設を1系統としようとしているが、住んでいるものとしては（災害時等）不安である。
- ・都市内のシンボリックな建物であるサンライフ光都は、数年前に塗り直しを行ったが、一部まだ塗れていない箇所がある。目立つ建物であり、テクノのイメージに影響を与える可能性が高いため、早期に塗り直しをするのが良いのではないか。
- ・附属高校の運動場と陸橋について老朽化が進んでいる。テクノのイメージに影響を与えるため、早期に補修するのが良いのではないか。

④産業・科学技術（企業誘致・雇用・地域経済活性化・大学など）

- ・第1工区の産業用地は売れているが、住宅用地はまだ売れ残っている。第2工区、第3工区に民間企業を呼び込んでいくことで住宅用地も売れるのではないか。また、住宅地については土地の値段が高いことが理由で住む場所として選ばれないのではないか。
- ・企業庁の財布が厳しいことを踏まえ、企業庁は、インフラの過剰部分のスケールダウンを考えているとのことだが、縮小よりもユーザーを増やすことによって収益を上げることができるのではないか。例えば、ホテルを誘致するなど。単にホテルをつくるだけでは、現状、宿泊客はいないため、集客の施策が必要である。集客施策としてSPRING-8の定期点検に出入りする業者の方が泊まる場所として（現状では相生などに宿泊している）、あるいは枇杷ノ谷で川崎重工の四脚バイク（コルレオ）の教習所や体験ができる施設をつくること（舗装されたコースよりも自然の地形を生かしたコースのほうが適している）、テクノがモデルとして登場する「攻殻機動隊」の展示などを行ってはどうか。
- ・無人運転については過去に取組があったが、そのような試験/実験をテクノで展開していけばいいのではないか。
- ・科学の街の中で県立大はシンボリックな存在である。県立大に学生を誘致するならば、学生が住みやすいように生活利便施設等を整備して欲しい。

- ・県立大学ができた当時から大学教諭をされていた方の意見ですが、SPring-8 が立地していること、その周辺に研究施設があるということもあり大学生が魅力を持って通っていた。最近では県立大学生から見たテクノ（播磨理学キャンパス）の魅力が低下している。欧州では学生証で飲食店等での割引を行っているような場合もある。若い人がここに来る魅力や優しさを感じるようなまちにすべきではないか。

⑤まちづくり

- ・テクノには良い意味で変わった人が多い、こうした住民の多さはテクノの魅力である。住民の多様性が高い地域である。住民の多様性を上手く生かしてまちづくりを進めていく必要があるのではないか。
- ・テクノに立地する学校の若者たちが関われるまちづくりの仕組みを作り、テクノで学ぶ学生たちをプレイヤーとして巻き込んで行くのが良いのではないか。
- ・テクノの計画は実態に合っていない。人口についても当時は一世帯あたり約 2.7 人であったかと思うが、今は一世帯当たり約 2.2 人である。
- ・佐用町では縮充ということを行っている。お金がない中でどうするかが重要である。

⑥その他（人・文化・イベントなど）

- ・第 2, 3 工区は無理だと思っている。第 1 工区をより良くするために注力してほしい
- ・テクノは星が綺麗である。有志で望遠鏡の使用方法的なレクチャーをする会を企画しているが、「星を見るならテクノ」というような企画があるといいのではないか。現状でも流星群などの時期には人が集まっている。星空を見るなら必然的に夜になるのでホテル需要も生まれるのではないか。
- ・外部に宣伝する際には、都市のありきたりなものだけではなく、突飛なものをアピールすれば効果が高いのではないか。
- ・てくてくマーケット（イベント）について、現状、上手く活用できていないのではないか。住宅用地の分譲などと絡めてはどうか。先日、企業誘致課が主催したイベント内容は、てくてくなどでも行っている内容もある。
- ・バスターミナルは現状、学生が勉強をするなどの利用があるが、それだけではもったいない。お酒のイベントなどで集客が可能ではないか。例えば、バス事業者とタイアップして移動式ラウンジとか、そのままバスで帰れるとか移動式の検討も面白いと思う
- ・テクノで里親制度を活用し、将来的にテクノに住んでもらうのがいいのではないか。
- ・てくてくマーケットは分譲を絡めた事業を行っても良いのではないか。
- ・新たに住んでいただく為に、住民にインセンティブを設けてはどうか。例えば、住民は播磨道を無料で利用可能とするなど。
- ・企業庁が県職員としてテクノのまちづくりを進めているが、検討をただけで終わってしまう可能性がある。専門的な意見を踏まえたものとなるのか。また近年テクノの土地の資産価値が大きく下がった。このタイミングで委託すれば現実味を帯びた解決に動くことができるのではないか。

■播磨科学公園都市の新たなあり方についての地域意見交換会

■2025 年 10 月 19 日（日）13 時 30 分～15 時 00 分

■主な意見

①生活環境（飲食・買い物・医療・交通・娯楽など）

- ・地域内に飲食店等はあるものの数が限られており、バリエーションが増えると嬉しい。
- ・住み続けられるまちとするためには、公共交通機関（特に相生方面への交通手段）や、かかりつけ医となる医療機関の充実が重要である。
- ・粒子線医療センターは、他地域に移転して再活用すれば、費用を抑えつつ採算の取れる施設として運営できるのではないかな。
- ・テクノ内の広い土地を活かし、スケートボードなど現代的なスポーツを楽しめる施設を整備してはどうか。また、専門スタッフがいなくても利用できる環境づくりも望ましい。

②自然環境（自然・景観・環境保全・アウトドア活動など）

- ・自然環境に恵まれていることから、ハイキングなど自然を活かしたイベントの実施を積極的に進めてはどうか。
- ・夜空の星が美しいため、天体観測などをPR素材として活用することを検討してはどうか。
- ・土地にはまだ余裕があるため、販売・活用方法を検討してほしい。第2工区・第3工区については、山林をそのまま残して環境保全を図るといった方向も視野に入れてはどうか。企業誘致にあたっては、環境面への配慮を意識したPRを進めてほしい。
- ・テクノ内には多くのウォーキングコースがあるが、認知が十分に進んでいない。未整備のまま残っているコースもある。時代の変化やニーズの変遷、整備コストの問題などが背景にあるかもしれない。今ある資源を活かしたまちづくりを検討してほしい。

③公共施設・インフラ等（水道・道路・交通）

- ・人口減少は大きな流れ。水道インフラでは企業を誘致し、一時的に水需要を得ても、その先は現在と同じような課題に直面しているのでは。
- ・都心へのアクセス性（モビリティ）の向上を図ってほしい。
- ・教育面では、中学校の部活動地域移行が進む中で、多様なスポーツに親しめる環境整備が求められる。そのためにも、交通手段の確保が重要である。
- ・水道問題についても、小さな街にあわせたものにするか、ホテルなどを建てて、今のものをそのまま活用するのかという選択肢があるが、どちらにしてもその後の今後の方向性を住民に見せながら、まちづくりを進めていくことが重要である。

④産業・科学技術（企業誘致・雇用・地域経済活性化・大学など）

- ・水道施設の能力が余っているが、水を多く使用するデータセンターの誘致を検討してはどうか。
- ・排水処理の確認は要るが、水道の水が余っているのなら、水が豊富に使えることをPRして企業誘致の推進を検討してはどうか。ショッピングセンターやアウトレットのような施設を誘致することも一案である。

⑤まちづくり（テクノ）

- ・テクノの土地は地盤がしっかりしており、これは販売促進の際の大きな強みとなる。
- ・あり方協議会での議論は、テクノの将来に関する「地図」を描くようなものであると認識している。現状と目標を見定めて、住民と行政が協働して、目標へ至る「ルート（進むべき道）」をつくっていく意識を持ってほしい。
- ・粒子線医療センターが閉鎖されるとのことだが、災害に強いことを活かして、医療都市にしてもいいのでは。県大には看護学部もあるので誘致もして。ただ医療に水は必須。
- ・テクノは災害に強いまちであり、その特性を活かしたまちづくりをすることが強みになるのでは。災害時に必要な施設等（高速道路、ヘリポート等）も備えている。
- ・西播磨地区のハブとなる都市を目指してはどうか。人口減少が進む中でも、最低限の賑わいづくりや、買い物・交通・医療などの生活インフラ整備を進めることは、西播磨地域全体の利点にもつながると考える。

⑥その他（人・文化・イベントなど）

- ・人口が少ないまちは、住民の意見が届きやすいという利点がある。
- ・インフラ問題や人口減少など失敗したというようなことばかり言われると住民の誇りが傷つく側面もある。テクノは今なお、住民が誇りを持って住み続けられるまちであると考えている。
- ・行政職員も「行政としての立場」だけでなく、「個人としての意見」も住民に伝えていくことが大切である。一人の大人として参加した方が生きた意見が出ると思う。
- ・テクノにとって想定される「最も悪いケース」についても整理・共有しておく必要があるのではないか。
- ・住民にお金を渡して撤退ということなどもありうるのか。
- ・行政が資料を用意して、自分たちで作った課題を解決するだけなら簡単である。住民からの課題をぱちんと切るのはもったいない。
- ・このような会では、行政課題は距離を感じる。住民目線の課題も意見交換が必要。
- ・基本方針を定めた後に、どのような生活が待っているのか。そこまでイメージを持っておく必要がある。
- ・住宅地が地域内で目立たない場所にあるため、あまり知られていないのではないか。居住エリアのPR方法を工夫してほしい。
- ・行政は周辺部にこそ注力していく必要がある。中心部は民間企業などの力で活性化していく（たつの市中心部など）
- ・テクノポリス構想の当初は長期的・広域的観点から都市づくりの夢を描いていた。話を聞いた当時わくわくした。結果としての姿や方法は変わっても理念は継承すべきでは。是非ワクワクするようなあり方を探って欲しい。
- ・あれがほしい、これがほしいと要望が出てくると思うが、企業庁での採算が取れない場合は一般会計予算からの補填となり結果的に我々の税金から出すことになるので、よく考えないといけない。
- ・住民の方々はいまだに県に呼ばれてきたという意識の人が多い。都市外に住んでいる人の意見も聞いてほしい。
- ・都市内の各施設もお互いに行き来しないので、都市内にどんな空間があるのか知られていない。まずは知り合っって人間関係を作るところから始めるといいのでは。都市内の施設を意見交換会や協議会の会場として使ってほしい。